

平成 31 年度 研究の全体構想図

学校の教育目標

共生 自立

【めざす生徒像】

- ・仲間と学習を進める中で、新たな見方・考え方を獲得し、自分の考えをより確かなものにすることで、学習への意欲をさらに高めていくことができる生徒
- ・目標や課題に向けて、個や集団で追究する中で、既習内容や、他教科の知識・理解、仲間の考え等と関わらせながら、個の学びを深めることができる生徒
- ・自分の目標や進路に向かい、自ら課題をもち、学び続けることができる生徒

【生徒の実態】

- 落ち着いて学習に取り組むことができ、自ら進んで課題追究する姿が多くみられる。
- 考えや思いを意欲的に伝えながら、自分の考えを再構築できるようになってきた。
- △自分と仲間の意見を関わらせながら、既習内容や仲間の意見とつないで考えることに弱さがみられる。
- △与えられたことや決められたことには意欲的に取り組めるが、自ら課題を見付け追究することには弱さがみられる。
- △学習習慣が定着している生徒とそうでない生徒の差が広がる傾向がある。

【研究主題】

仲間と共に自ら学び続ける生徒の育成 ～個の学びが深まる授業を通して～

【研究仮説】

各教科等の特性を生かして学び続ける学習集団づくりを基盤として、学年や教科のつながりを意識した単元を構想し、学び合いを軸とした学習展開や指導援助を工夫することで、個の学びが深まる授業となり、仲間と共に自ら学び続ける生徒の育成ができる。

□研究主題：「仲間と共に自ら学び続ける生徒」のイメージ

- ・身に付けた知識・技能を最大限に活用しながら目的や課題に対する自分の考えをもち、自分と仲間の考えを比較しながら学習を進める中で、新たな見方・考え方をもち、自分の考えを深めることにより、学習への意欲がさらに高まっていく姿

□副 題：「個の学びが深まる授業」のイメージ

- ・目的や課題に対する自分の考えをもち、自分と仲間の考えを比較しながら学び合う中で、新たな見方・考え方をもち、自分の考えを深めることができる授業

【研究内容】

【研究内容 1】

教科等の付けたい力を育むことができる

単元構想の工夫

- ・学年、教科のつながりや、出口の姿を意識し、付けたい力を明確にした単元構想図の作成
- ・目標や学習内容から、学習形態の意図的な配置の工夫

【研究内容 2】

個の学びが深まるための単位時間の工夫

- ・学習の見通しをもち、学び合いを通して、自分の考えを深めることのできる展開や、指導援助の工夫
- ・生徒が学びの実感を得ることができる振り返りの工夫

【研究を進めるにあたって】

学習の基盤となる安心して学習に向かえる学習集団づくり（全教育活動を通して）

- ・教科の特性を生かした学び方の定着
- ・考えや思いを安心して伝え合うことができる集団づくり